

事業所防災リーダー通信2023 Vol.27

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。

作成 東京都総務局総合防災部



ハザードマップの活用

災害が発生した際の被害想定区域、避難場所や避難経路が記された防災用の地図をハザードマップといいます。

自宅や勤務先、通勤中に発生しうる災害はどんな災害なのかを知り、防災に努めましょう。

ツールの活用

ハザードマップポータルサイトでは、周囲の災害リスクを調べることができるツール『**重ねるハザードマップ**』があります。これを活用することにより、洪水、土砂災害、高潮、津波のリスク情報や、土地の特徴、成り立ち等を地図や写真に重ねて表示することができます。

また、地域のハザードマップを閲覧できるツール『**わがまちハザードマップ**』も活用し、勤務中に被災した場合の避難場所や避難経路を社内に掲示するなどして周知しておきましょう。



重ねるハザードマップ: <https://disaportal.gsi.go.jp/maps/?ll=35.371135,138.735352&z=5&base=pale&vs=c1j0l0u0t0h0z0>
わがまちハザードマップ: <https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmapportal/hazardmap/index.html>

ハザードマップの種類

それぞれの災害が及ぶ地域や、予想される被害の危険度、避難所や避難経路が記されています。

洪水ハザードマップ	火山ハザードマップ	津波ハザードマップ
川の破堤、氾濫等の浸水情報、大雨や台風の際の浸水想定区域等を知ることができます。集中豪雨の頻発化により、下水が雨水を排水しきれずに浸水する「内水氾濫」に対応するため、内水ハザードマップを作成している地域もあります。	火山ごとにそれぞれのハザードマップがあります。火砕流や降灰等、噴火した際に災害がどこまでの範囲に及ぶのかを知ることができます。火山周辺の自治体のハザードマップには、ヘリコプターの緊急発着場所等の防災情報を記しているところもあります。	津波による浸水が予想される区域、想定浸水深、津波到達時間等について知ることができます。避難に必要な津波の危険度を知ることが、いざというときに適切な判断へつながります。

東京都からのお知らせ

東京都では一斉帰宅の抑制について、日ごろからイメージしてもらうためにガチャピンとムックがわかりやすく解説する動画を作成しました。本動画は**どなたでも無料で、ご都合のよいタイミングで視聴**できます。下記のリンクからアクセスしてください。

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kitaku_portal/1006183/index.html